

風土記の丘の花だより¹⁴¹

今、そしてこれから見られる植物(2022年7月2日)

何と、もう梅雨明け！これまでで最も早く、最も短いということですが、今年の夏はどんな夏になるのでしょうか。秋が早く来るのでしょうか、夏が長いのでしょうか。降り過ぎるのも困りますが、降らないというのもまた困ったことです。



オレンジ色のヤブカンゾウが咲き始めました。八重咲きなのでボリュームがありますね。去年の開花が6月26日ですから、ほとんど同じです。異常気象なのに、この花は正直に咲くものですね。かつてのユリ科から、今ではススキノキ科という分類に変わっています。柳川家の北側では、同じ仲間のユウスゲも咲いていますが、名前のおり夕方から咲くので、残念ですが閉館後にしか見られません。



今は草ぼうぼうで行きにくいですが、花木園のケンポナシに花が咲いています。秋にグニャグニャした面白い形のとても甘い実ができます。聞くところによると、ずっと前にどこかのお寺さんからいただいて植えたということです。今では数メートルの大きな木に育っています。



中央の階段の中ほど、右側にもうハギの花が咲いています。このハギはミヤギノハギといって、夏の暑い頃から咲き始めます。それでナツハギと呼ばれることもあるそうです。花の集まりを花序(かじょ)といいます。花序の柄が長いとか、枝が長く伸びて、よく垂れるとかの特徴があります。その近くにはピンク色のインドハマユウも咲いていますよ。



ネズミモチから遅れること約一月、トウネズミモチの花が咲き始めました。ネズミモチより花序が大きくて、花数も多く、盛り上がるように咲きます。もうハナムグリやハチなど、たくさんの虫たちが集まって来ています。トウは唐、中国のことです。昔、中国から持ち込まれた樹木で、いまでは街路樹や生け垣などにも普通に植えられています。 松下